

第七管区海上保安本部

定例記者懇談会

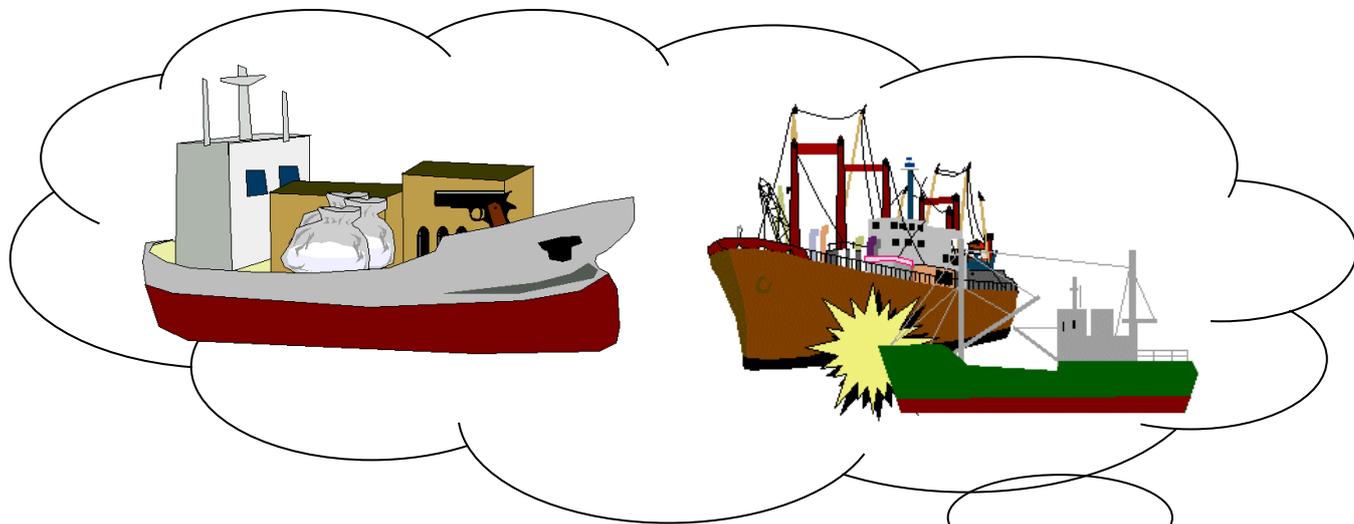
令和5年1月17日

— プレスリリース —

(1) 1月18日は「118番の日！」

(2) 船舶海難・人身事故ともに減少!!

～令和4年の船舶海難・人身事故の発生状況（速報値）について～



海の「事件・事故」は

118番





問い合わせ先

1. 第七管区海上保安本部
広報・地域連携室長 谷口
TEL 093-321-2931(内線 2111)
2. 第七管区海上保安本部
警備救難部 救難課長 古川
TEL 093-321-2931(内線 3250)

令和5年1月17日
第七管区海上保安本部

1月18日は「118番の日！」

海上保安庁では、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年5月から緊急通報用電話番号「118番」を導入しました。

また、平成22年度から毎年1月18日を「118番の日」とし、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解してもらうため、全国で周知活動を行っております。

「118番の日」は、今年で13回目を迎えますが、通報の多くが間違い電話等であり、未だ十分に浸透していない状況です。第七管区海上保安本部においても、引き続き各地で周知活動を行ってまいります。

1. 運用開始(平成12年)から令和4年までの通報実績【別添1参照】

全国の「118番」総架電件数に占める「船舶海難関係通報」や「人身海難関係通報」等の有効架電件数は平成12年の運用開始からこれまで、約5000件とほぼ横ばいの状況です。

なお、昨年1年間の「間違い電話」や「いたずら電話」等の非有効架電件数は約39万件で、運用開始当初から比較すると半減しておりますが、未だに総架電件数の多くを占めています。

第七管区海上保安本部においても同様で、昨年1年間の「118番」総架電件数の約2万5千件のうち「船舶海難関係通報」や「人身海難関係通報」等の有効架電件数は約800件(全体の約3パーセント)で、「間違い電話」や「いたずら電話」等の非有効架電件数が約97パーセントを占める状況でした。

このように、依然として通報の多くが間違い電話等であり、「118番」が未だ十分に浸透していない状況です。

第七管区海上保安本部では、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解していただくため、引き続き各地で周知活動を行ってまいります。(各事務所での活動については別添2参照)

2. 参考事項

1 118番とは

海上保安庁緊急通報用電話番号「118番」は、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年5月から導入されたものです。

2 聴覚や発話に障がいがある方へ（別添3参照）

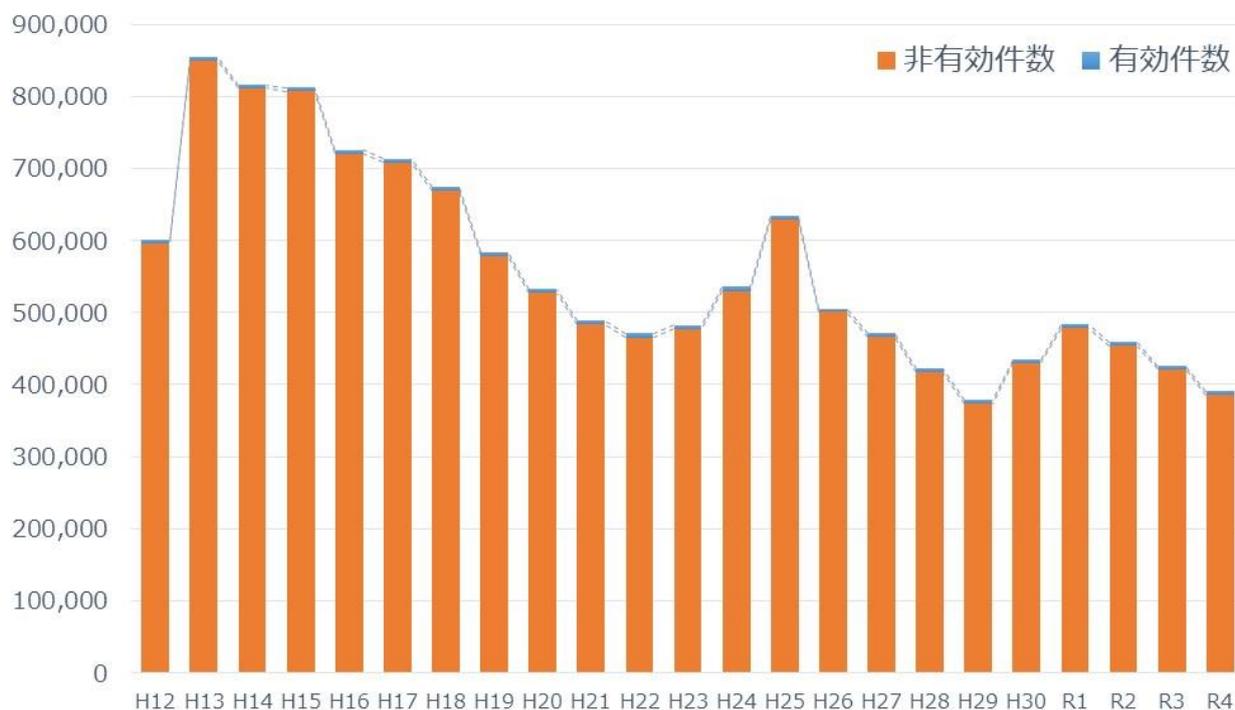
令和元年11月1日から、聴覚や発話に障がいのある方のためのインターネットを使用した緊急時の通報サービスである「NET118」の運用を開始しています。

これにより、携帯電話・スマートフォン等の入力操作で海上保安庁への通報が可能となりました。

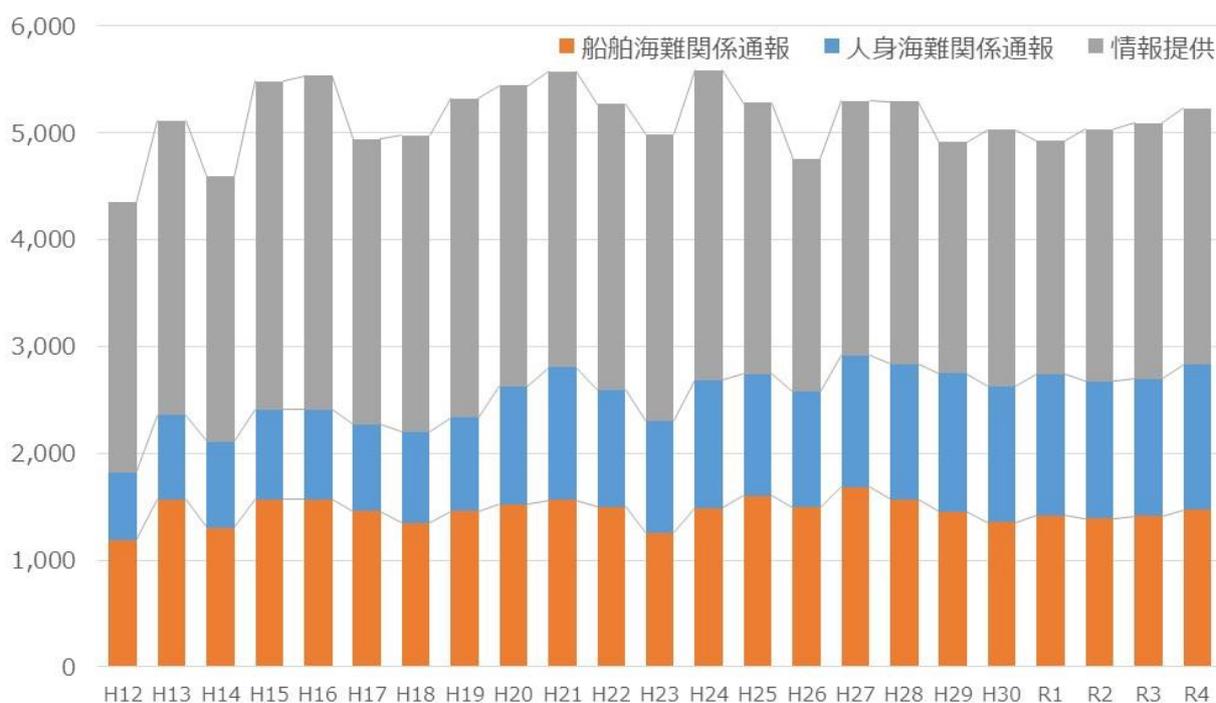
3 118番認知度調査（別添4参照）

令和4年12月に約1,000人を対象に「118番」の認知度等について、アンケートを実施しましたので、集計結果を取りまとめています。

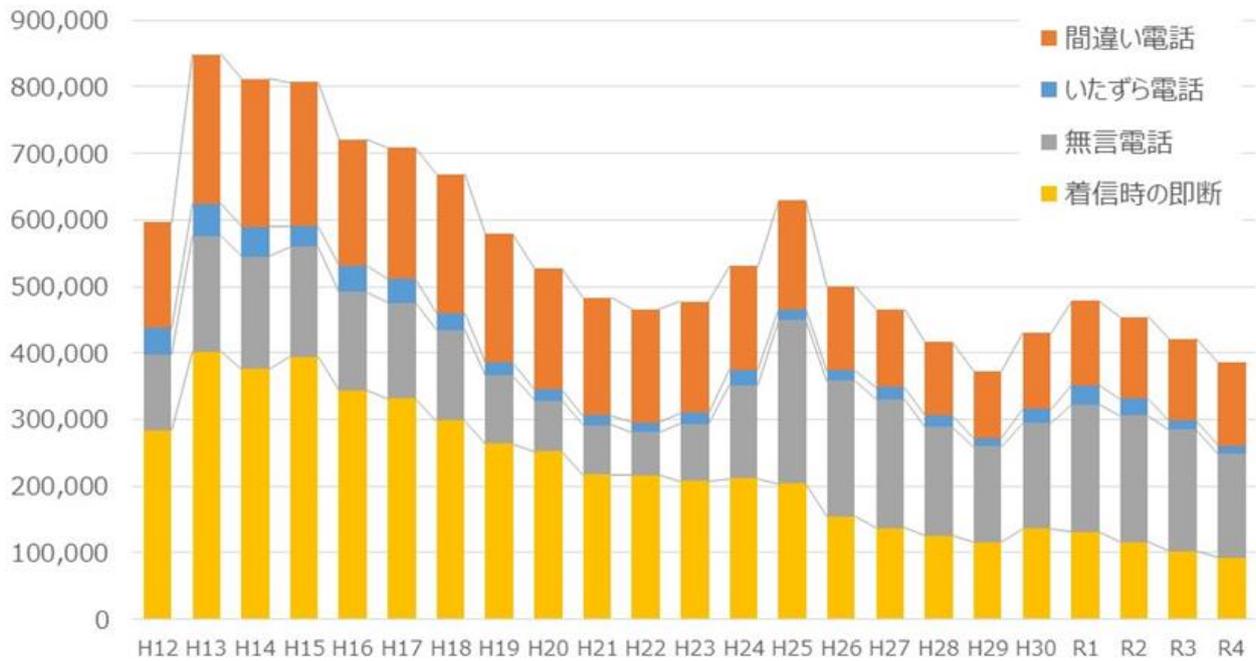
118番通報の年別有効・非有効架電件数(全国)



118番通報の年別有効架電件数の傾向(全国)



118番通報の年別非有効架電件数の傾向(全国)



運用開始から令和4年までの通報実績(全国)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
有効件数	4,349	5,116	4,588	5,483	5,533	4,942	4,976	5,321	5,440	5,573	5,268
船舶海難関係通報	1,190	1,566	1,304	1,566	1,566	1,460	1,346	1,456	1,523	1,561	1,496
人身海難関係通報	632	789	805	843	840	809	855	878	1,101	1,245	1,099
情報提供	2,527	2,761	2,479	3,074	3,127	2,673	2,775	2,987	2,816	2,767	2,673
非有効件数	596,183	849,011	811,564	806,683	720,604	708,689	668,763	578,946	526,888	483,588	465,567
間違い電話	158,132	224,624	221,770	215,928	188,657	197,345	208,826	192,894	181,933	177,688	170,145
いたずら電話	39,779	47,921	45,163	31,506	39,906	36,254	25,017	20,015	16,495	13,697	13,762
無言電話	114,399	174,189	168,697	164,831	148,297	143,135	136,391	102,185	75,879	74,628	64,861
着信時の即断	283,873	402,277	375,934	394,418	343,744	331,955	298,529	263,852	252,581	217,575	216,799
合計件数	600,532	854,127	816,152	812,166	726,137	713,631	673,739	584,267	532,328	489,161	470,835

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
有効件数	4,985	5,584	5,282	4,755	5,297	5,293	4,913	5,028	4,926	5,034	5,087	5,229
船舶海難関係通報	1,257	1,486	1,600	1,494	1,680	1,567	1,454	1,352	1,417	1,388	1,410	1,468
人身海難関係通報	1,047	1,196	1,140	1,080	1,237	1,267	1,291	1,274	1,324	1,283	1,284	1,363
情報提供	2,681	2,902	2,542	2,181	2,380	2,459	2,168	2,402	2,185	2,363	2,393	2,398
非有効件数	477,246	530,166	629,069	500,600	465,602	416,837	373,323	429,771	478,276	454,063	421,046	385,606
間違い電話	166,957	155,521	162,992	126,366	116,567	110,281	100,981	114,112	126,678	122,577	122,421	124,724
いたずら電話	16,060	23,144	16,914	15,535	18,422	17,942	12,792	21,287	28,656	24,991	13,519	12,433
無言電話	86,834	140,153	245,094	203,668	193,499	162,746	143,764	157,963	191,192	190,795	182,721	156,073
着信時の即断	207,395	211,348	204,069	155,031	137,114	125,868	115,786	136,409	131,750	115,700	102,385	92,376
合計件数	482,231	535,750	634,351	505,355	470,899	422,130	378,236	434,799	483,202	459,097	426,133	390,835

別添2

「118番の日」前後における取組み（第七管区海上保安本部管内）

番号	行事概要と実施場所	実施日	問い合わせ先	備考	実施部署
1	地元TV局による118番周知活動の収録 (仙崎海上保安部庁舎内にて収録)	1/11(水)	仙崎海上保安部 管理課 TEL 0837-26-0241		仙崎海上保安部
2	NET118の概要説明及びデモンストレーション 長崎県言語視聴覚士会	1/12(木)	長崎海上保安部 管理課 TEL 095-827-5133	言語視聴覚士に説明を実施し、聴覚や発話に障がいのある方へNET118の紹介を依頼する	長崎海上保安部
3	コミュニティラジオ出演 AIR STATION HIBIKI	1/12(木)	若松海上保安部 管理課 TEL 093-761-2497		若松海上保安部
4	下関पोर्टレース場118番周知 下関市長府松小田東町1-1	1/12(木) ～ 1/18(水)	下関海上保安署 TEL 083-267-1711	電光掲示板による周知	下関海上保安署
5	118番周知活動 長崎ペンギン水族館	1/15(日)	長崎海上保安部 管理課 TEL 095-827-5133	13:30～15:00(予定)	長崎海上保安部
6	ポスター掲示・周知依頼 苅田町役場・行橋市役所・JR(苅田・行橋)	1月上旬～中旬	苅田海上保安署 TEL 093-436-3356	町役場、市役所については、福祉課に対し、NET118チラシの配布を実施。	苅田海上保安署
7	リーフレット及びポスター掲示・周知依頼 管内漁業協同組合・釣具店 等	1月上旬～中旬	苅田海上保安署 TEL 093-436-3356		苅田海上保安署
8	安全指導及び118番周知(リーフレットの配布) 管内の漁協及びフェリーターミナル	1/16(月) ～ 1/20(金)	五島海上保安署 TEL0959-72-3999		五島海上保安署
9	報道機関に対する運用司令センター見学	1/17(火)	第七管区海上保安本部 総務課 TEL 093-321-2931		第七管区海上保安本部
10	地域関係先への118番ポスター掲示依頼	1/18(水)	仙崎海上保安部 管理課 TEL 0837-26-0241		仙崎海上保安部
11	118番周知島内公共告知放送 壱岐島内	1/18(水)	壱岐海上保安署 TEL 0920-47-0508		壱岐海上保安署
12	リーフレット等の配布による118番周知活動 パークプレイス大分	1/18(火)	大分海上保安部 管理課 TEL 097-521-0112		大分海上保安部
13	118番ポスター掲示 北九州空港ターミナル 朽網駅	1月18日	北九州航空基地 管理課 TEL 093-474-7006	ポスター掲示期間調整中	北九州航空基地
14	ラジオ番組内での118番周知 FMラジオちよっくらじお	1月17日11:00～	北九州航空基地 管理課 TEL 093-474-7006	職員の出演あり	北九州航空基地

聴覚や発話に障がいのある方へ

【別添3】



海での事件・事故に関する緊急時の通報は『NET118』をご利用ください。

緊急時の通報

海での事件や事故



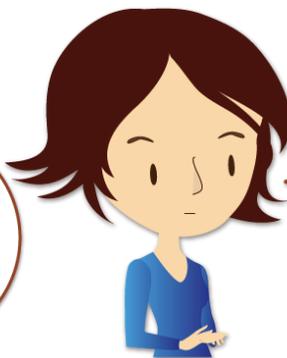
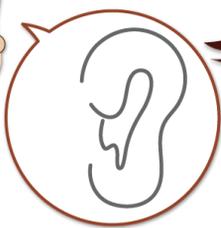
通報

出動

NET118は、聴覚や発話に障がいのある方のためのインターネットを使用した緊急時の通報サービスです。

携帯電話・スマートフォンを使い、素早く海上保安庁に通報することができます。

ご利用できる方



費用：無料

携帯・スマートフォンの通信料が別途必要です。

聴覚に障がいを持つ方

発話に障がいを持つ方

NET118の利用案内

本サービスは「事前登録制」のサービスです。
以下の登録方法により、あらかじめ登録してください。

利用者
登録が
必要！



こちらのQRコードを読み取る もしくは、
entry@net118.jpを直接あて先に入力し、空メールを送信
登録用メールが返ってくるので、案内される手順に従い登録

よくある質問

Q1 誰が利用できますか？

A 聴覚や発話に障がいがあり、音声による通報が困難な方が利用できます。

Q2 お金はかかりますか？

A 携帯電話・スマートフォンの通信料をご負担ください。
その他の費用はかかりません。

Q3 どんな携帯電話・スマートフォンでも通報可能ですか？

A ドコモやauやソフトバンクなど、国内の通信事業者が提供する携帯電話・スマートフォンで通報することができますが、利用する端末でインターネットやEメールが使用できる必要があります。

Q4 どのように通報しますか？

A 通報は画面上に表示される案内にしたがって操作します。
練習モードがありますので、緊急時に備えて練習モードで通報方法の確認を行ってください。

(登録等システムに関するお問い合わせ先) ※受付は平日午前9時から午後6時までとなります。

海上保安庁警備救難部 管理課

電話：03-3591-6361 (内線：5160、5161)

メール(共通)：jcg-net118@mlit.go.jp

(その他のお問い合わせ先)

海上保安庁警備救難部 救難課

電話：03-3591-6361 (内線：5910、5911)

メール(共通)：jcg-net118@mlit.go.jp

※セキュリティの関係により、添付ファイルがある問い合わせメールには対応できません。

国土交通行政インターネットモニター制度※により海上保安庁緊急通報用電話番号「118番」に関する調査を行いました。

実施期間

令和4年12月8日(木)
~
同年12月28日(水)

回答者

984名

対象者

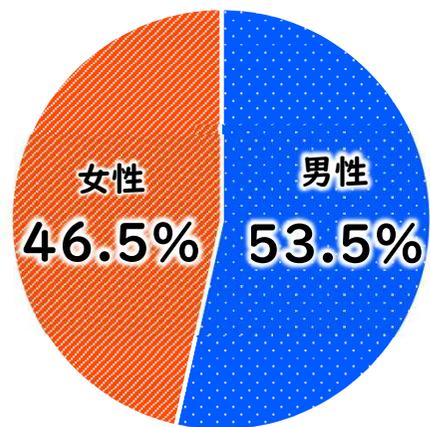
1,070名

回答率

92.0%

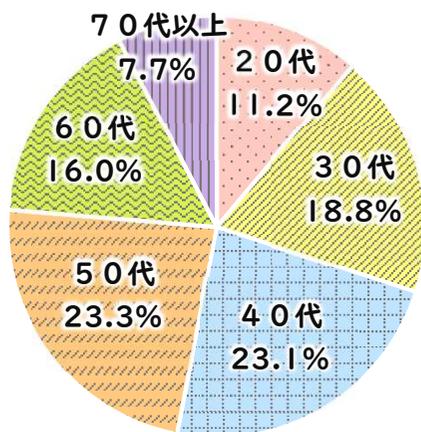
※広く国民一般を対象として、国土交通行政の課題に関しインターネットの利用による質の高い意見・要望等を聴取するためのモニターを選定し、国土交通行政に資することを目的とする制度

性別



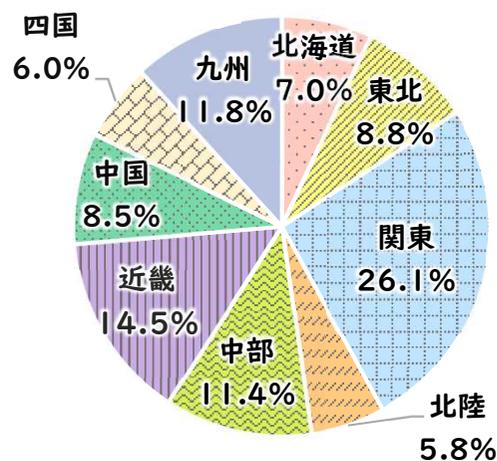
男性	526名
女性	458名
合計	984名

年代別



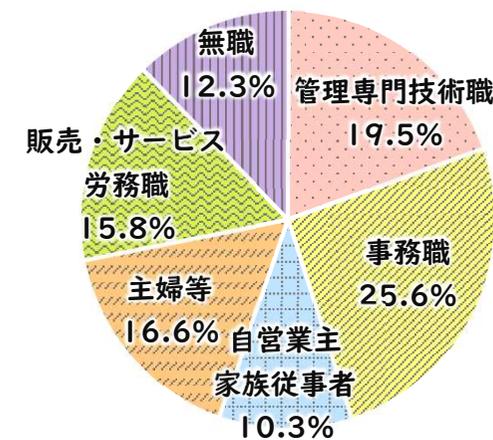
20代	110名
30代	185名
40代	227名
50代	229名
60代	157名
70代以上	76名
合計	984名

地域別



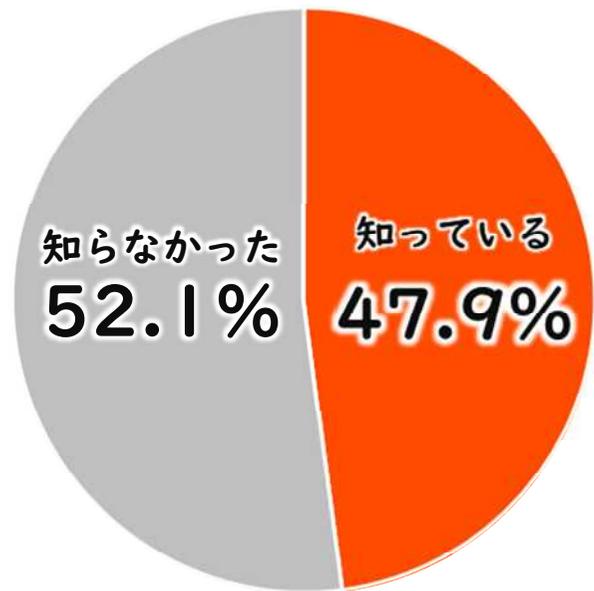
北海道	69名
東北	87名
関東	257名
北陸	57名
中部	112名
近畿	143名
中国	84名
四国	59名
九州	116名
合計	984名

職業別



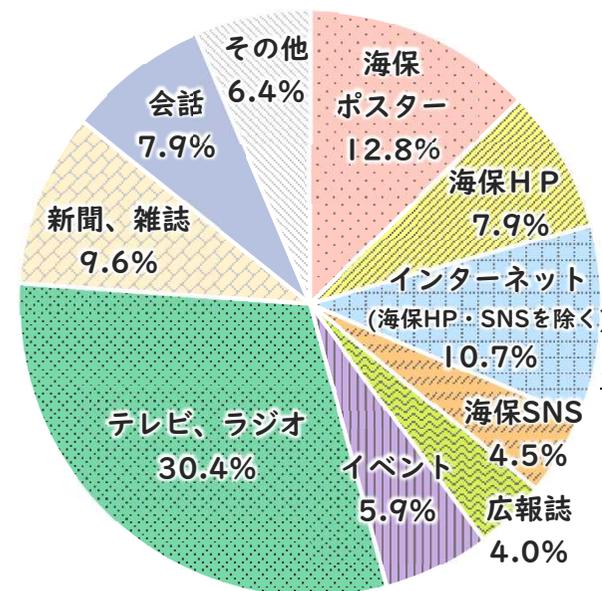
管理・専門技術職	192名
事務職	252名
自営業主・家族従事者	101名
主婦等	163名
販売・サービス・労務職	155名
無職	121名
合計	984名

問.1「118番」をご存知ですか



知っている	471名
知らなかった	513名
合計	984名

問.2「118番」をどのような媒体から知りましたか(複数選択)

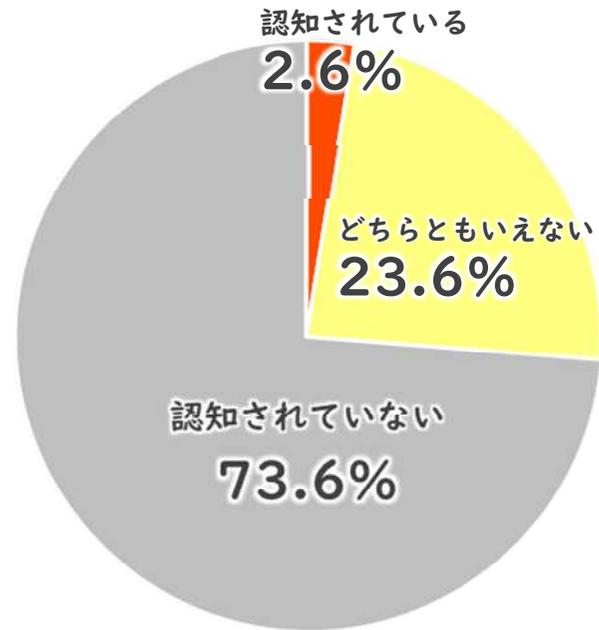


その他
 ・小型船舶免許の講習等
 ・港・道路・防波堤上の看板
 ・公衆電話の上にある緊急連絡用番号案内
 ・子供の教材
 など

海上保安庁の広報関連ポスター	106名
海上保安庁ホームページ	65名
インターネット(海保ホームページ、SNSを除く)	88名
海上保安庁公式TwitterなどのSNS	37名
海上保安庁の広報誌(パンフレット等)	33名
海上保安庁主催のイベント(巡視船や施設の一般公開)	49名
テレビ、ラジオ	251名
新聞、雑誌	79名
家族、友人、知人との会話	65名
その他	53名

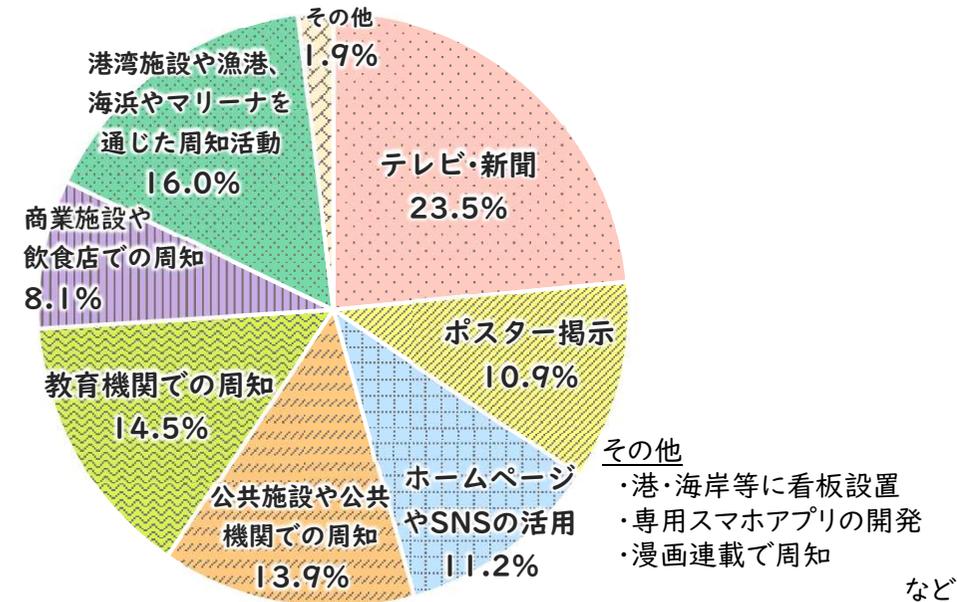
※「118番」を知っている方(471名)のみ

問.3「118番」の認知度について



認知されている	26名
どちらとも言えない	232名
認知されていない	726名
合計	984名

問.4「118番」認知度向上のための効果的な取組み(複数選択)



テレビや新聞などを通じた周知活動	752名
周知用ポスターの掲示	350名
ホームページ(海保含む)やツイッターなどのSNSを活用した周知活動	360名
公共施設や公共交通機関を通じた周知活動	446名
保育園、幼稚園、学校などの子育て・教育機関を通じた周知活動	466名
商業施設や飲食店を通じた周知活動	259名
港湾施設や漁港、海浜やマリーナを通じた周知活動	513名
その他	60名

※「118番」を知っている方(471名)のみ



【問合せ先】

第七管区海上保安本部
 交通部 安全対策課長
 古場 芳樹
 TEL 093-321-2931(内線2640)

令和5年1月17日

第七管区海上保安本部

船舶海難・人身事故ともに減少！！
 ～令和4年の船舶海難・人身事故の発生状況（速報値）について～

令和4年第七管区海上保安本部管内における船舶海難・人身事故の発生状況は、

船舶海難は310隻で前年比28隻の減少

人身事故は235人で前年比36人の減少

となり、いずれも過去10年で最少となりました。

※ 令和4年の値は速報値であり、今後変更される場合もあります。

※ 説明文中〈 〉内は、令和3年の値です。

【船舶海難】（別紙1及び2参照）

令和4年は、310隻<338隻>で28隻減少しました。

死者・行方不明者数は1人<11人>で10人減少し、内訳はプレジャーボートの1人です。

船舶種類別では、

プレジャーボート 135隻<163隻> 28隻減少

うち、ミニボートは14隻<24隻>

漁船 80隻 <87隻> 7隻減少

貨物船 39隻 <30隻> 9隻増加

海難種類別では、

衝突 57隻 <95隻> 38隻減少

運航不能（機関故障） 51隻 <54隻> 3隻減少

乗揚げ 38隻 <33隻> 5隻増加

となっています。

船舶海難の発生状況を見てみると船舶種類別では、海難の大半を占めるプレジャーボート・漁船が減少し、貨物船が増加、海難種類別では衝突、運航不能（機関故障）が減少し、乗揚げが増加しています。

【船舶海難の事故事例】

旅客船の火災！～北九州市消防局と協力して救助～

事故船舶（旅客船）は、4月27日午後1時30分頃、乗組員2名の他、乗客等43名乗船のうえ、北九州市小倉北区所在の砂津港を出港し、視察目的で若松ひびきコンテナターミナル向け航行中、小倉北区所在の日明沖で乗組員が機関室から出火を確認、航行不能となったことから、運航会社を通じ118番通報を行った。

巡視艇及び北九州市消防局の消防艇が乗組員及び乗客等45名を救助するとともに、消防艇が消火活動を実施して鎮火確認がなされた後、事故船舶は巡視艇により曳航され、北九州市門司区所在の門司港に入港した。

曳航時の状況



火災船の状況



船舶火災発生！～火災により沈没～

事故船舶（プレジャーボート）は、5月13日午後7時5分頃、船長他1名乗船のうえ、鳥取県境港市から福岡向け回航中、冷却水の温度が高いことから停船したところ、排気口から黒煙が上がっており、機関室内を確認したところ火災が発生していた。

船長は、状況から機関室に近づかない方が良いと判断し、ライフジャケットを着用のうえ、直ちに118番通報を行った。

その後、船首甲板に避難していたが、火が広がったため、船長と乗組員は防舷物を持って海に飛び込んだ後、30分程海に浮いていたところ、本部運用司令センターから要請を受けた付近航行船舶に救助された。

事故船舶は、火災による影響で、海中に沈没した。

水上オートバイからの海中転落 ～戻れずに漂流～

事故者（男性）は、8月21日午後1時30分頃、食事等で立ち寄っていた福岡県宗像市神湊付近から1人で水上オートバイに乗船して遊走に出たのち、同日午後1時40分頃、同市所在の勝島付近で一旦漂泊し、水上オートバイの物入れからジュースを取ろうとした際、誤って落水したものの。

事故者は水上オートバイに泳いで戻ろうと試みるも風潮流の影響でたどり着けず、自身も風潮流に逆らえず南西方向に流されたため泳ぐことを諦め、波浪に身を任せ漂流していた同日午後9時頃、福岡県福津市所在の白石浜海水浴場へ漂着し、怪我等なく無事であった。

水上オートバイは8月22日、福岡県福津市所在の鼓島に漂着した状態で発見された。

事故者が使用していた水上オートバイの漂着状況



大変危険！～ミニボートでの大航海～

事故船舶（ミニボート）は、9月3日午後1時頃、男性1名乗船のうえ香川県を出港し、観光目的で瀬戸内海から豊後水道を經由し鹿児島県屋久島に向け、途中各地に立ち寄りながら航行していた。

同船は、9月9日午後5時頃、大分県大分市佐賀関所在の海岸にボートを陸揚げし野営をしていたが、場所を移動するため、同日午後9時頃、懐中電灯のみの灯火で出港し、航行していた同日午後10時30分頃、船外機が停止し航行不能となったことから、118番通報を行った。

その後、事故者は、大分県水難救済会所属の船舶により救助された。



【人身事故】（別紙3及び4参照）

令和4年は、235人<271人>で36人減少しました。

死者・行方不明者数は117人<114人>で、3人増加し、内訳はマリンレジャー以外の海浜事故が71人<72人>、船舶海難によらない人身事故が28人<20人>、マリンレジャーに伴う海浜事故が18人<22人>です。

事故区分別では、

マリンレジャー以外の海浜事故	111人<119人>	8人減少
マリンレジャーに伴う海浜事故	50人<74人>	24人減少
船舶海難によらない人身事故	74人<78人>	4人減少

マリンレジャーの活動内容別では、

釣り中	30人<35人>	5人減少
遊泳中	12人<28人>	16人減少

となっています。

人身事故の発生状況を見てみると事故区分は何れも減少し、特にマリンレジャーに伴う海浜事故が全体で24人減少し、このうち遊泳中の事故が16人減少しています。

【人身事故の事故事例】



生死の分かれ目！～救命胴衣の着用の有無～

事故者A、B（ともに男性）の2名は、10月7日午前6時頃、磯場で釣りを始めたが、約10分経過した頃、突然の大波に襲われ、事故者Aが海中転落した。

このため、事故者Bは直ぐにロープを投げ入れAを救助していたところ、再び大波に襲われ救助中のBも海中転落し、両名とも海上において漂流状態となった。

この時、Aは救命胴衣を着用していたが、Bは救命胴衣を着用しておらず、Aは身に付けていた防水パック入り携帯電話で118番通報するとともに、Bの身体を確保し救助を待っていたが、波に揉まれるうちにBと離れてしまい、そのまま見失った。

同日午前8時25分頃、Aは漂流しているところを捜索中の水難救済会所属の船舶により救助され、一命をとりとめたが、Bは10月15日に遺体となって発見された。

磯場からの海中転落！～備えたおかげで無事救助～

事故者（男性）は、11月26日午後零時50分頃、職場の同僚と二人で磯釣りへ向かう途中、海面が腰の高さ程度の磯場を歩いて移動し、岩場が上がろうとしたところ、足を滑らせ転倒、そのまま沖側に流されたもの。

一度は自力で岩場が上がろうと試みたものの、事故現場の潮流が速かったため、岩場に戻ることを断念し、漂流状態で救助を待つこととした。

同僚は、職場経由で海上保安庁に救助を要請するとともに、事故者自身も身に付けていた防水パック入り携帯電話から、118番通報を行い、現場に到着した巡視艇により無事救助された。

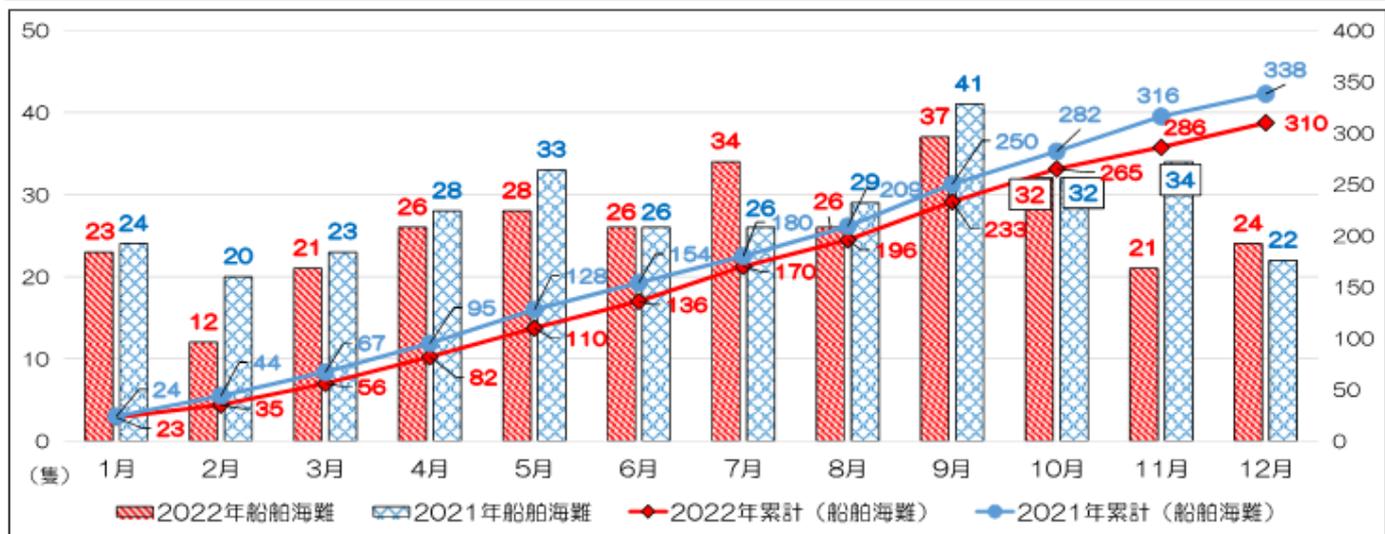
救助中の事故者



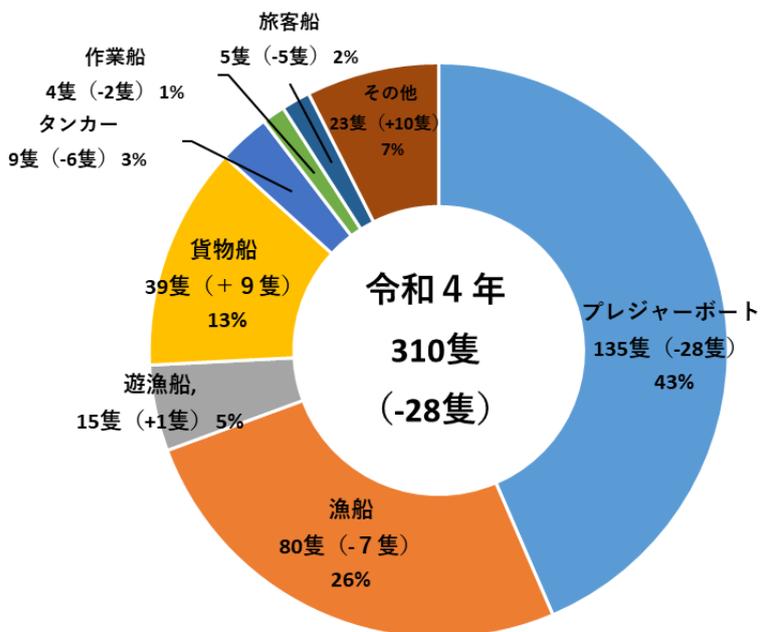
船舶海難の発生状況

2022年は速報値
2021年は確定値

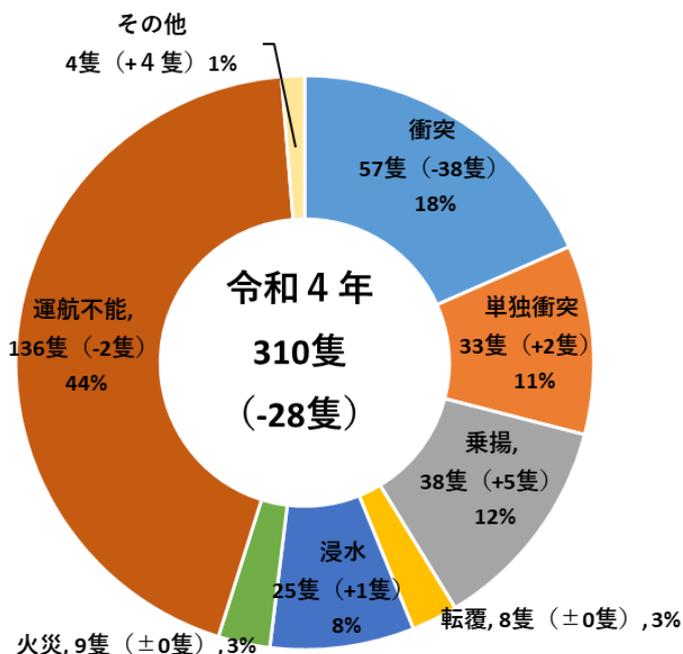
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年船舶海難	23	12	21	26	28	26	34	26	37	32	21	24
2021年船舶海難	24	20	23	28	33	26	26	29	41	32	34	22
前年差	-1	-8	-2	-2	-5	0	8	-3	-4	0	-13	2
2022年累計（船舶海難）	23	35	56	82	110	136	170	196	233	265	286	310
2021年累計（船舶海難）	24	44	67	95	128	154	180	209	250	282	316	338
前年累積差	-1	-9	-11	-13	-18	-18	-10	-13	-17	-17	-30	-28



船舶種類別発生状況



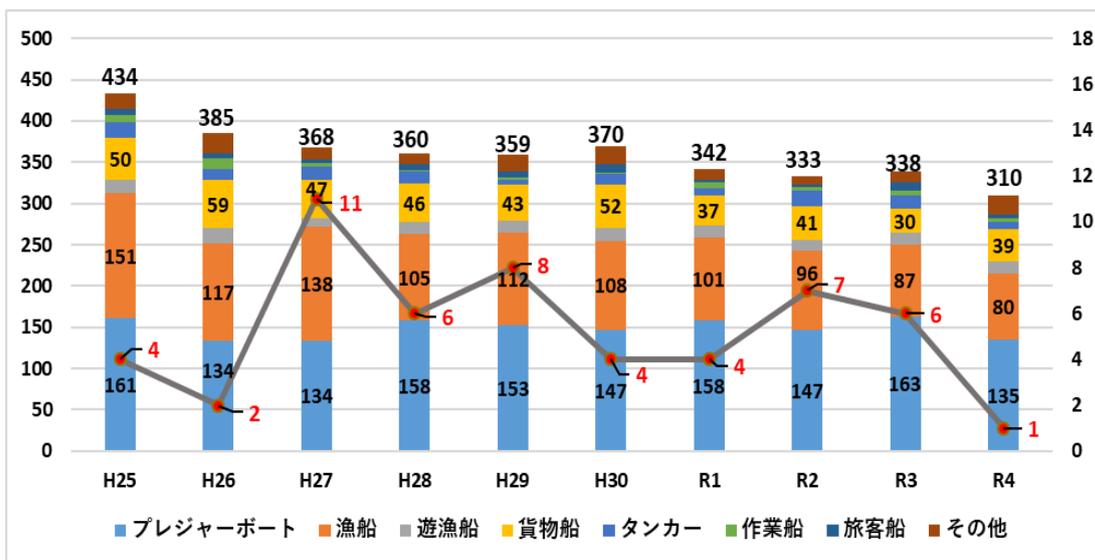
海難種類別発生状況



※1 船舶の用途の「その他」は練習船、監視取締船、軍艦等

※2 海難種類の「運航不能」は、推進器障害、舵障害、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流、走錨及び荒天難航等を含む

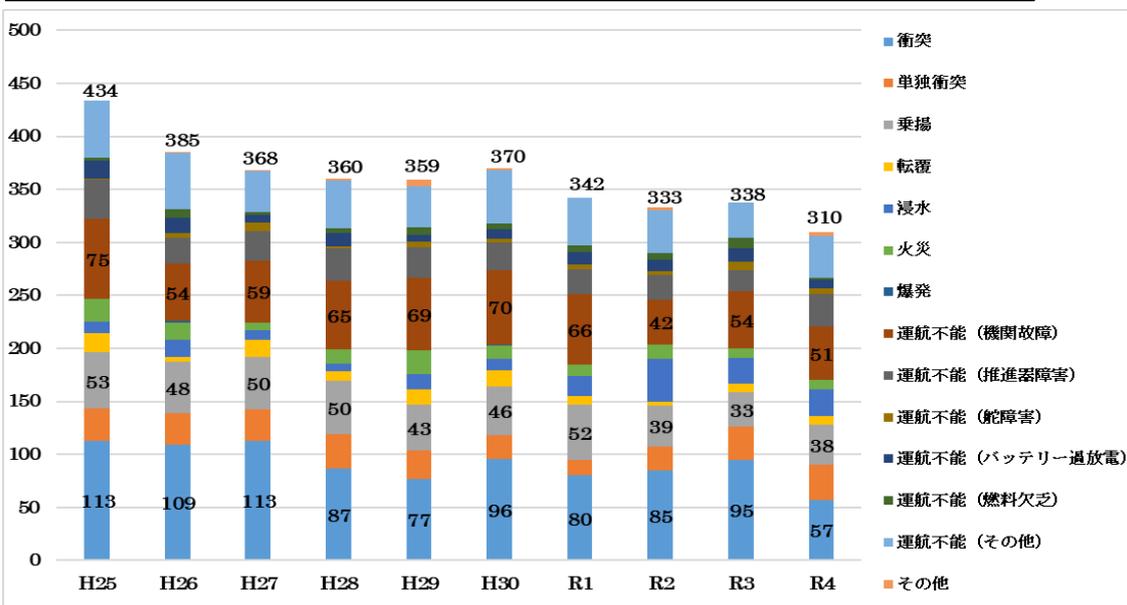
船舶種類別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在
 ※赤字は死者・行方不明者数



ミニボート海難の発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
ミニボート	9	11	5	9	10	11	17	13	24	14

船舶種類別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在



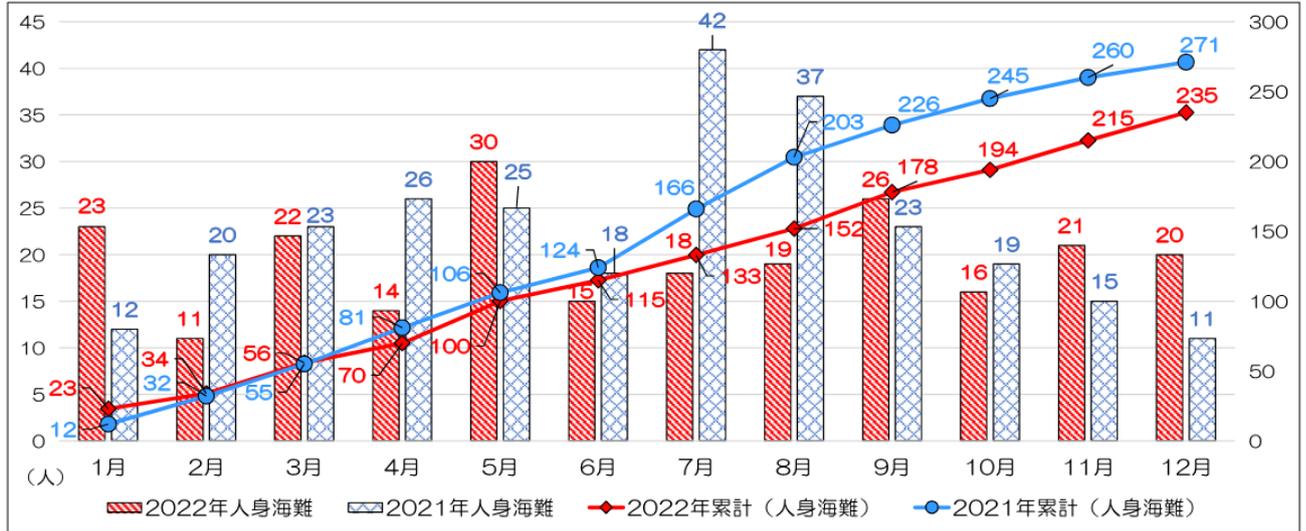
県別船舶種類別発生状況（令和4年：速報値）

船舶種類	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
プレジャーボート	12	53	18	33	19
漁船	8	25	8	27	10
貨物船	8	20	2	4	5
遊漁船	0	6	1	6	2
その他	2	19	2	11	8
総計	30	123	31	81	44

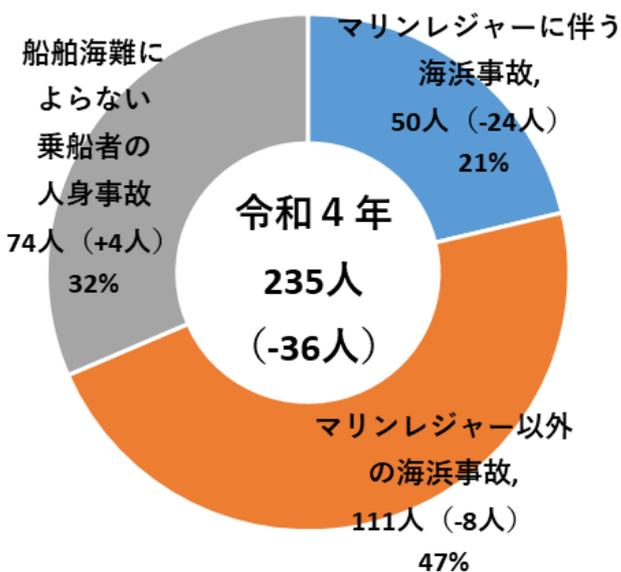
人身事故の発生状況

2022年は速報値
2021年は確定値

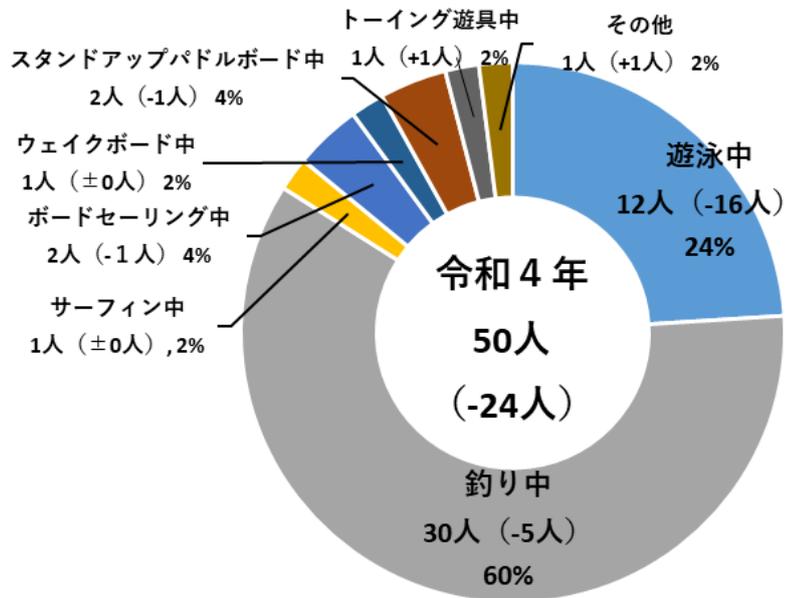
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年人身海難	23	11	22	14	30	15	18	19	26	16	21	20
2021年人身海難	12	20	23	26	25	18	42	37	23	19	15	11
前年差	11	-9	-1	-12	5	-3	-24	-18	3	-3	6	9
2022年累計(人身海難)	23	34	56	70	100	115	133	152	178	194	215	235
2021年累計(人身海難)	12	32	55	81	106	124	166	203	226	245	260	271
前年累積差	11	2	1	-11	-6	-9	-33	-51	-48	-51	-45	-36



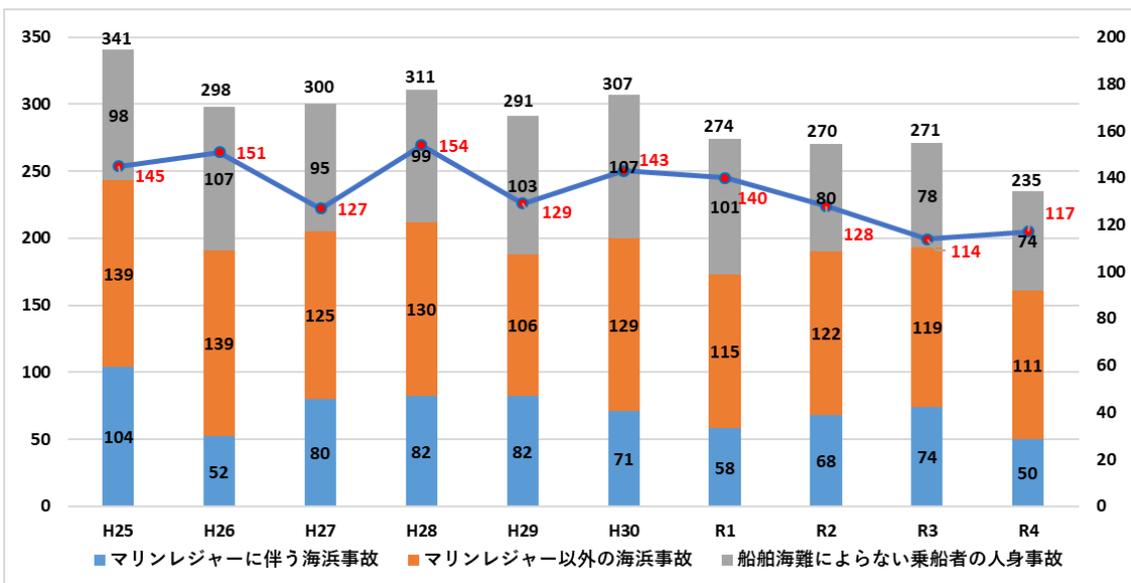
事故区分発生状況



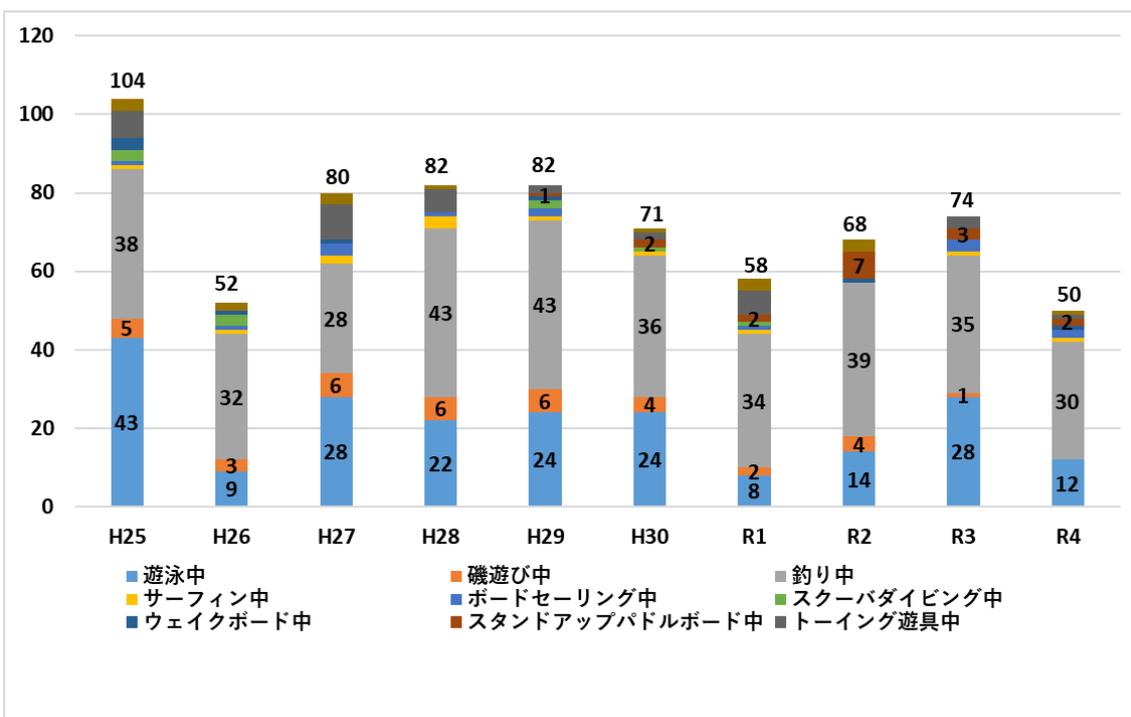
活動種類別発生状況
(マリレジャーに伴う海浜事故)



事故区分別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在
 ※赤字は死者・行方不明者数



マリレ活動内容別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在



県別事故区分別発生状況（令和4年：速報値）

事故区分	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
マリレに伴う海浜事故	5	18	6	15	6
マリレ以外の海浜事故	12	49	7	29	14
船舶海難によらない乗船者の人身事故	14	20	8	26	3
総計	31	87	21	70	23